A tropical landscape with palm trees and a body of water. The scene is slightly hazy, with a blue sky and green foliage. The water in the foreground is calm, reflecting the surrounding environment.

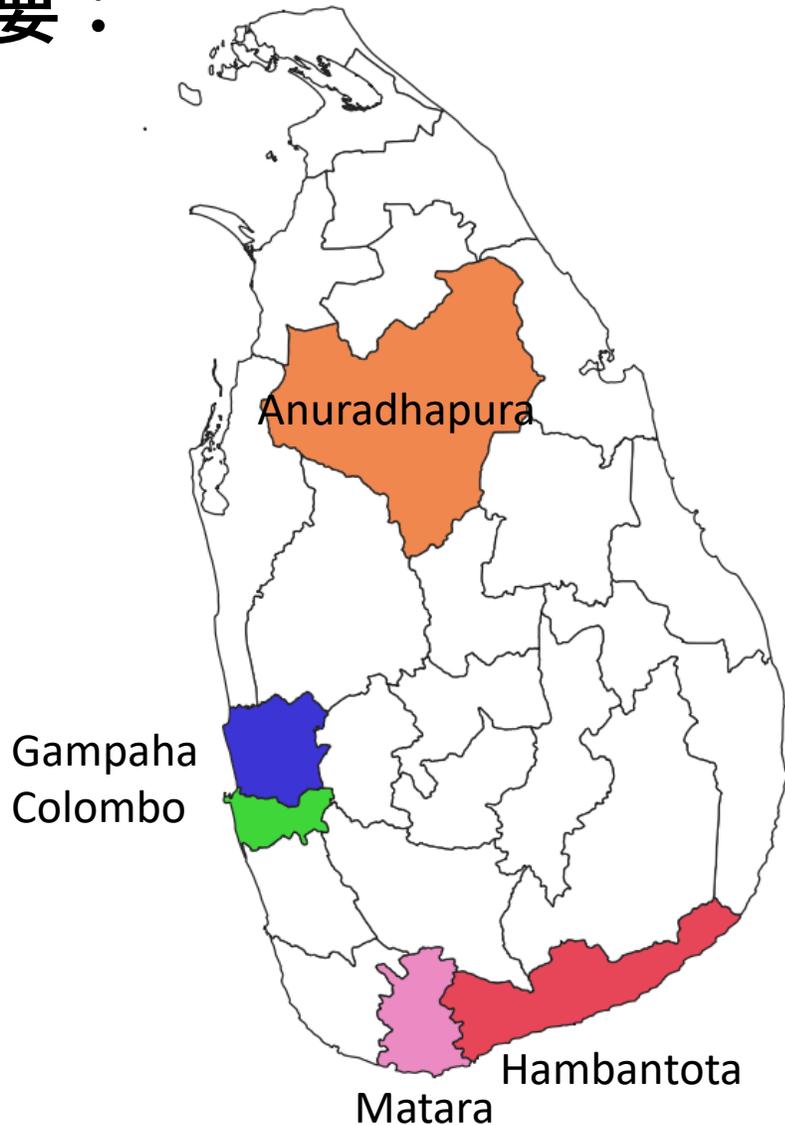
スリランカの道路網が 地域経済に与える影響の評価 －公共事業の実施に着目して－

杉山紗弥佳 (D2) 赵新杰 (M2)

東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻

国際プロジェクト研究室

概要：

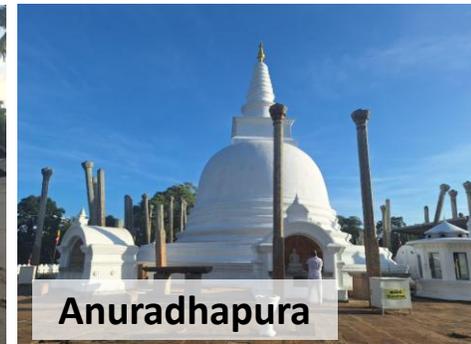


本研究はスリランカの農村地域において、灌漑事業の効率性を介して道路網が地域の農業経済に与える影響を示すことを目的としている。

今回頂いた資金をもとに、スリランカにおいて

- 多変量解析のためのデータの入手
- 灌漑局職員へのインタビュー・追跡調査
- 農家へのインタビューを行った。

本報告書では二回に渡る渡航で得た知見の報告を行う。

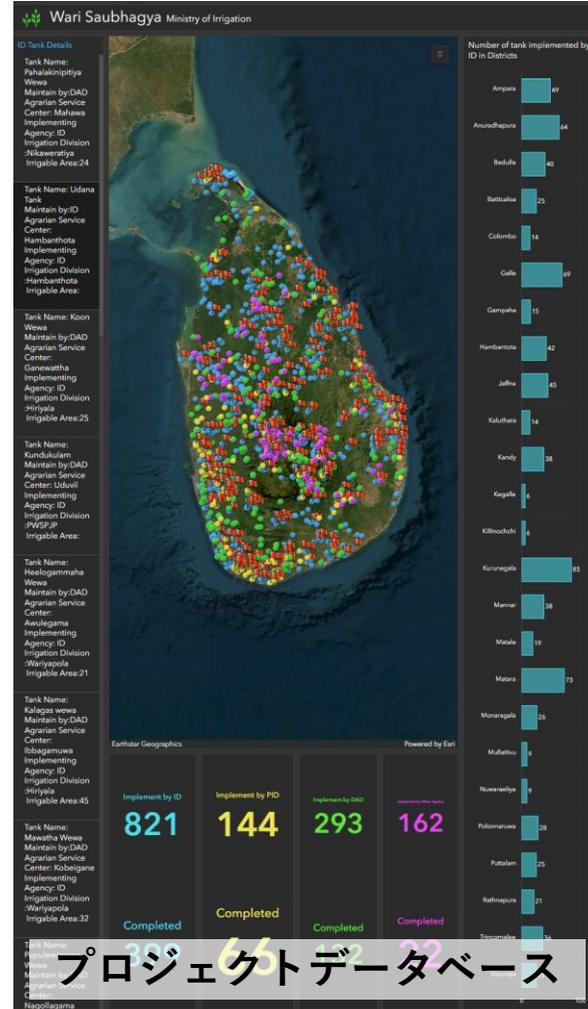
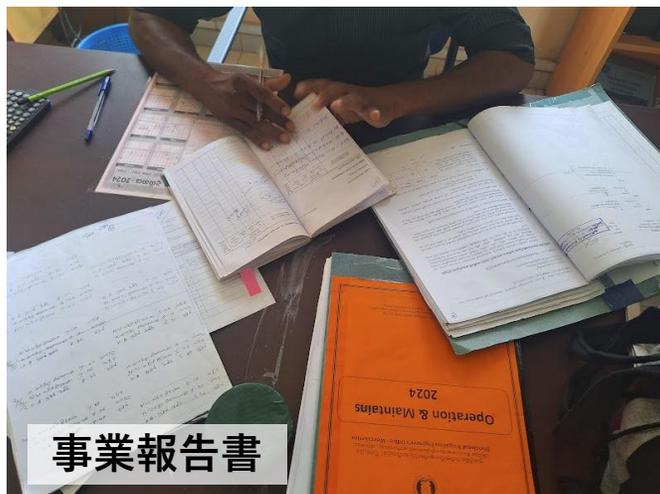


スリランカ訪問のスケジュール：

[表：訪問時のスケジュール]

6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29	6/30	7/1
Director General 挨拶												データ追加交渉
プロジェクトデータ交渉			データ確認 事前分析		Hambantota県 インタビュー・追跡調査			Matara県 インタビュー 調査		データ分析 有識者 インタビュー		
11/3	11/4	11/5	11/6	11/7	11/8	11/9	11/10	11/11	11/12	11/13	11/14	11/15
	Director General 挨拶	Director of Colombo 挨拶					Anura-dhapura 県移動					有識者インタビュー
			Colombo・Gampaha県 インタビュー・追跡調査					Anuradhapura県 インタビュー・追跡調査				

灌漑局でのデータ入手交渉：



- 小～中規模の灌漑事業は地域のオフィス (Division office)に所属するEngineering Assistantと呼ばれる職位の官僚によってマネジメントされ、紙のファイルに資料が全てまとめられて保管されている。
- 大きな全国規模のプロジェクトとなると最近ではGISシステムが導入されるようになり、データベースとして事業の進捗がまとめられるようになった。
- 今回は当該全国規模プロジェクトに注目することとしたため、中央オフィスにてこちらの元データを手に入れないか交渉し、実際に手に入れることができた。
- これにより、灌漑事業の管理やその過程における道路網の役割についてのインタビューを行う時間をより多く得ることができた。

職員へのインタビュー：



灌漑局のオフィス外観



舗装された路面



灌漑局のオフィス内観



舗装されていない路面

- オフィスでは多くの職員が週のうち2~4日は建設現場に出かけてマネジメントを行っている。オフィスから離れた現場へ向かう際にはオフィスの車両を用いている。
- 実際にオフィスの車両に同乗させて頂いて、現場を見に行かせて頂くことができた。路面の状況としてはオフィス近辺の市街地は良好な状態で舗装されている道が多かった。
- 一方で、現場に近い農地が多いエリアとなると路面が舗装されていない箇所が出てくるようになった。現在道路開発庁が農業用道路を舗装するプロジェクトを進めている。
- オフィスの車両の台数も限られていることから、オフィスと現場との往来を支える地域の道路網は近辺のプロジェクトだけではなく、オフィス全体の灌漑事業に影響を与えていると考えられる。

職員へのインタビュー：



オフィスの車庫



洪水で壊れた灌漑インフラ



オフィスの車両



洪水で壊れた灌漑インフラ

- 歴史的にスリランカは灌漑局の職員と農家の協力関係が強く、灌漑インフラに問題があった際には必ず担当のEngineering Assistantが駆けつける。その際にも舗装道路が通っていることは重要である。
- 一方で、灌漑インフラの損壊は地域の農家の収入に大きな影響を与えるため、損壊が起こってしまった際には農家が灌漑局に対して抗議運動を起こすこともある。
- また、灌漑インフラの建設事業は稲作の季節の間は、近辺の水供給を阻害しないために休止しなくてはならない。よって、一度遅延すると稲作の季節が終わるまで事業を再開できない。

農家へのインタビュー：



農家のお宅



農家へのインタビュー



JICAが整備した道路



農家が使う原付バイク



頂いたお茶

- 農家のお宅は農地のほど近くであり、農協を通じて農家同士がとても強く繋がっている。
- 農家の足は原付バイクであり、多少の農地の近くの悪路も通れるためであると考えられる。
- 農家の灌漑局に対する印象は良く、特に農協の役職に就いている人々は頻繁に連絡を取っている。
- 地方で訪ねたコミュニティでは、過去にJICAが農業用道路のプロジェクトを行っており、効率的に作業ができるようになったと非常に感謝をしていた。
- 調査をしているとお茶やお菓子を出して頂き、とても歓迎して頂いた。

本研究活動を通じて感じたこと

- データを分析しても見えてこないインフラ事業のマネジメントの難しさ、そしてマネジメントへの地域コンテクストの影響の大きさを改めて実感した。今回は道路網について着目したが、実際には政治的な影響や、水害の影響など様々な興味深い影響要因が見られた。
- 道路網の整備によってコミュニティ内の意思疎通が容易になるかについては、少々インタビューからは見えづらいと感じたものの、灌漑局のオフィスからのアクセスのしやすさや農業機器の導入といった農業の効率化の点には非常に大きく貢献していると感じた。今後は現地の道路開発庁等、道路の事業を行っている担当の方にもご意見を伺いたい。
- 調査の過程で度々JICAのプロジェクトについて話題に上がり、地方の市民がインフラ事業のドナーを強く認識していることを知り非常に驚いた。
- 二回に渡り深い調査を行う貴重な機会をご支援くださった皆様、そしてスリランカにて歓迎してくださった灌漑局や地域の方々、Kelaniya大学の先生方、リサーチアシスタントに厚く御礼申し上げます。

